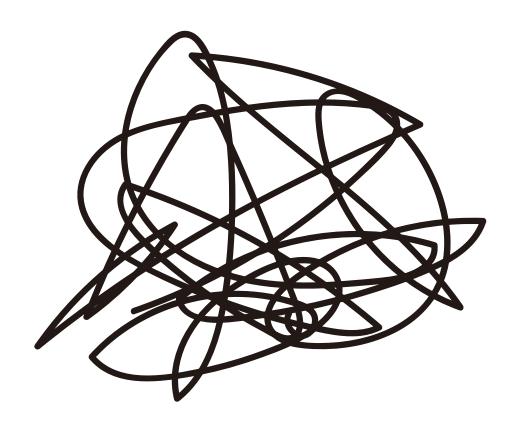


229-2 Shoshoi-cho, Nakogyo-ku, Kyoto 604-0862 JAPAN

Tel +81 75 213 5839 Fax +81 75 213 5849



KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 SPRING プログラム発表

広報に関するお問合せ先曖 KYOTO EXPERIMENT事務局 (担当:豊山、前田) Tel: 075-213-5839 Mail: pr@kyoto-ex.jp ※本資料に掲載の画像をご使用希望の場合は上記までご連絡ください。

> その他のお問合せ KYOTO EXPERIMENT 事務局 Tel: 075-213-5839 (平日 11:00-19:00) Fax: 075-213-5849 Mail: info@kyoto-ex.jp https://kyoto-ex.jp

※プレスリリースは、ウェブサイトよりダウンロード出来ます。 https://kyoto-ex.jp ※広報用画像は、ウェブサイト内プレスページにてパスワードを入力いただくと ダウンロードできます。パスワードは下記までお問合せください。

> KYOTO EXPERIMENT 事務局(広報担当:豊山、前田) TEL: 075-213-5839(平日 11:00-19:00) E-mail: pr@kyoto-ex.jp

☞ 目 次

p.4	開催趣旨、	概要、	KYOTO EXPERIMENT とは

ごあいさつ p.5

ディレクターズ・メッセージ p.6-7

KYOTO EXPERIMENT 新ロゴ、ロゴコンセプト、アートディレクター p.8

フェスティバルを構成する3つのプログラム p.9

Kansai Studies (リサーチプログラム) p.10

p.11-20 Shows (上演プログラム)

小原真史

デイナ・ミシェル

垣尾優

フロレンティナ・ホルツィンガー

山本精一

ナターシャ・トンテイ

音遊びの会×いとうせいこう

中間アヤカ&コレオグラフィ

ウィチャヤ・アータマート/ For What Theatre

ママリアン・ダイビング・リフレックス/ダレン・オドネル

p.21-25 Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)

p.26 ミーティングポイント、ブックフェア

p.27 More Experiments、提携プログラム

チケット情報 p.28-29

公演スケジュール p.30-31

p.32 会場

開催クレジット p.33

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭では、

公益社団法人全国公立文化施設協会および、

各劇場の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに沿って、

感染拡大防止対策を講じ、

ご来場者の皆さま及びアーティスト・フェスティバル関係者の

安全と安心を確保することに努めて参ります。

対応の詳細につきましては、会期前に KYOTO EXPERIMENTウェブサイトに掲載いたしますので、

ご確認の上、ご来場いただけますようお願いいたします。

☞ 開催趣旨

11回目を迎える KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭では 、 3名の共同ディレクターによる新体制のもと新たなプログラム構成をスタートし、

「京都の実験」をさらに展開していきます。

今回始動するのは、多様な視点で社会と実験的な舞台芸術を結びつけることを目指し、実施する3つのプログラムです。 国内外の先鋭的なアーティストによる作品を上演するプログラム、

KYOTO EXPERIMENT が開催されている京都および関西地域をアーティストとともにリサーチし

未来の創作基盤につなげていくプログラム、

トークやワークショップなど鑑賞とは異なるフォーマットで、

舞台芸術に限らず先端的な思考に触れるプログラムから構成しています。

こうしたプログラムを通じて、実験的な舞台芸術を鑑賞し、

またそれを生み出す環境やそこから社会に派生する出来事についても共に思考する場をひらいていくことで、 フェスティバルと人々の間に交感しあう、新たな関係性を築くことを目指しています。

圆 概 要

会期 5 2021年2月6日(土)-3月28日(日)

会場☞ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、京都伝統産業ミュージアム、 京都府立府民ホール "アルティ"、mumokuteki ホール ほか

主催☞京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、 京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、 京都芸術大学 舞台芸術研究センター]



KYOTO EXPERIMENT とは

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭は、

2010年より毎年京都市内で開催している国際舞台芸術祭です。

国内外の「EXPERIMENT(エクスペリメント)= 実験」的な舞台芸術を創造・発信し、 芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指しています。

演劇、ダンス、音楽、美術、デザイン、建築などジャンルを横断した実験的表現が集まり、 そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、舞台芸術の新たな可能性をひらいていきます。

暖ごあいさつ

京都市長ご挨拶

文化芸術都市・京都に大きな存在感を占める「KYOTO EXPERMENT 京都国際舞台芸術祭」。 新型コロナウイルス感染症による影響が見通せない中ではありますが、

開催の運びとなったことは大きな喜びです。

開催に御尽力いただきました、天野文雄委員長をはじめとする実行委員会の皆様、

並びに全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

文化芸術は人の心を豊かにするもので、

不安定な状況が続くウィズコロナの時代において、とりわけ不可欠な営みです。

新たに3名のプログラムディレクターをお迎えし、「観客とともに創造するフェスティバル」を目指した今回の祭典。

既存の表現を超え、舞台芸術の新たな可能性をひらく新しい挑戦に、皆様どうぞ御期待ください。

本市では、新型コロナウイルスの感染拡大防止と文化・経済活動の両立を目指して、 文化芸術活動の支援に全力で取り組んでおります。

コロナ禍においても本祭典の実施をはじめ文化芸術の灯をしっかりと灯し続けてまいります。

皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本芸術祭が御参集の皆様にとって実り多いものとなりますことを祈念いたします。

京都市長 門川大作

新たな EXPERIMENT(実験)に向けて

2010年にスタートし、2019年で満 10年を迎えた KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭は、 前プログラムディレクターの橋本裕介氏を中心に、

国内外の最先端の舞台芸術の招聘など意欲的な活動を展開した結果、

国内はもとより海外からも注目される舞台芸術祭に成長しつつあります。

そして、11年目の今年度からは、ディレクターも川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ3氏の トロイカ体制となり、さらに実行委員長も森山直人氏から不肖ながら小生に交代し、

陣容を一新して新たな EXPERIMENT に挑戦することになりました。

しかし、ご案内のように、この春以来の新型コロナウイルス感染症の影響で、

今年度の京都国際舞台芸術祭は恒例の秋ではなく、

KYOTO EXPEIMENT 2021 SPRINGとして 2021年の2月から3月にかけて催すことといたしました。

いささかイレギュラ-な出発となりましたが、「力をも入れずして天地を動かす」のが芸術です。

その芸術の力を舞台芸術において京都から発信する、それがわたくしたち実行委員会に課せられた使命にほかなりません。ニュー KYOTO EXPERIMENT にどうぞご期待ください。

京都国際舞台芸術祭実行委員会委員長 天野文雄

ぼディレクターズ・メッセージ

更なるエクスペリメンタルな領域へ

11回目を迎える KYOTO EXPERIMENT は、私たち3名の共同ディレクターという新体制による、フェスティバルの新たなスタートです。橋本裕介前プログラムディレクターからディレクションを受け継ぎ、共同ディレクターチームとして始動したのは2019年4月。以来、2020年度のフェスティバルに向けて準備をしてきましたが、その過程で私たちを取り巻く世界は大きく変化しました。KYOTO EXPERIMENT 2020として用意していたフェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により秋の開催を見送り、2021 SPRINGとして2021年春に開催することになりました。

その対応の中で、変更を余儀なくされ、また当初の想定とは異なる形になったプログラムもありますが、この「KYOTO EXPERIMENT」というフェスティバルで私たちが実現したいことの多くは変わりません。準備を始めてから1年以上が経ったいま、新たなフェスティバルの形とプログラムをみなさんと共有できることを嬉しく思います。

新たな出発に際して、3人でのミーティングを膨大に持つ中で互いに問い続け、プログラムに反映していったい くつかのことがあります。

ひとつは、「KYOTO EXPERIMENT= 京都の実験」という名を冠すこのフェスティバルにおいて、どのような舞台芸術の実験が可能なのか?という問いです。KYOTO EXPERIMENT は、文字通り京都という街において実験的な舞台芸術を紹介するフェスティバルです。「実験的」とはどういうことなのか、京都という都市において実験的表現を創作し共有していくことにどんな意味があるのか。共同ディレクションの始点からこれらの問いを持ち続ける中で、社会の様相も変化を遂げていきました。国内においても国際的な社会においても、他者に対する非寛容性や分断、経済格差、環境危機など、グローバリゼーションがもたらす負の側面ともいえる諸問題が叫ばれる中で、なぜ「実験的」表現を国際舞台芸術祭という場で追求していくべきなのか。こうしたことを考える中で、ますます分裂し、また二極化していく世界においては、KYOTO EXPERIMENTという国際性と創造性を有するプラットフォームからこそ、何かと何かの間、未知やわからないこと、曖昧さ、つまりそうした実験的表現に焦点を当て、生み出していくことが重要ではないかと考えるようになりました。

誰もが「わかる」のではなく「わからない」可能性のある実験的表現こそが思考の領域を広げ、これからの時代における新たな価値観や寛容性を生み出すのではないか。そしてそれができるのは、つねに新たな視点や予想外のやり方を既存の価値観や方法論に持ち込むことのできる、表現者たるアーティストではないでしょうか。また、「京都」という、多くの大学や芸術創造拠点、先端企業が位置する都市においては、アーティストが新たなアイディアを異なる分野とつなげながら展開していくポテンシャルが十分にあることから、実験的表現をこの街で展開することに大きな意義を見出しました。

これらのことから導き出したのは、既存の表現形式を飛び越えるもの、ある表現形式と別の表現形式のハイブリッドを生み出したりそれらの間を提示するもの、プロセス主導型の表現、また京都をはじめとする関西地域で展開されてきた表現活動を見直し発展させる表現やリサーチをプログラムに据えることです。こうした表現は、知らず知らずの間に私たちが線を引いてしまっている認知領域を軽やかに飛び越え、また京都という創造都市の可能性を存分に感じさせるものであると考えています。

もうひとつ重要な問いは、フェスティバルを鑑賞する場ではなく、思考する場にするためにはどのような提案が 必要か、ということです。上演される作品をすべての中心に据えるのではなく、それを生み出す環境やそこから社 会に派生する出来事をもフェスティバルの一環として捉えることはできないか。また、毎年開催されるフェスティ バルとフェスティバルの間に思考の関係性を創っていくことは可能だろうか。これらのことから、Kansai Studies (リ サーチプログラム)、Shows (上演プログラム)、Super Knowledge for the Future (エクスチェンジプログラム、略 称 SKF)という 3 つのプログラムを柱とした形でのフェスティバルを考えました。この骨組みがフェスティバルの 可能性をひらき、アーティストと観客が互いを発見すると共に、対話を生み出す新たな関係性を創り出すことを願っ ています。

Kansai Studies は、KYOTO EXPERIMENT が拠点とする京都、そして関西地域をアーティストとともにリサーチするプログラムで、そのプロセスをウェブサイト上で公開していきます。今年度は、私たちの生活に欠かせない「水」をテーマにしたリサーチを進めており、アーティストならではの視点によるその過程は、思考の反転や予想外の出会いと展開に満ちています。このプログラムが KYOTO EXPERIMENT の思考のベースとなり、ゆくゆくは京都で創作する国内外のアーティストの立脚点となることも目指していることのひとつです。

Shows は、いわゆる鑑賞型のプログラムですが、舞台芸術におけるさまざまな境界線に注目し、そうした境界線への問いを緩やかであったり鋭くであったり、独自のやり方で投げかける表現を配置しています。何かの答えを示すのではなく、問いの設定方法やそのプロセス、問いから導き出される対話の糸口を提示する表現に注目しました。また、Showsではこうした表現を生み出すアーティストの創作を促進していきます。

SKF は、フェスティバルを構成するにあたり背後にあるさまざまな事象や、Showsの演目でトピックとなっている事象、または舞台芸術に限らずいまの社会において重要な事象をトークやワークショップなど観劇とは異なるフォーマットで取り上げ、対話の場をひらいていくプログラムです。「未来に役立つスーパー知識」がこのプログラムでシェアされ、議論やエクスチェンジ、新たなアイディアを生み出すことで、未来のフェスティバルにも影響を与えていくことを目指しています。

実験的表現は、ひとつの形を規定するのではなく、常に変化を続けていくものでしょう。まさにその変化し続ける表現のあり方こそ、「いま」を規定することなく複数の形で具現化しながら、未来に向けてさらなる変容を続ける可能性を秘めているものだと信じます。その変容のプロセスにみなさんと共に参加していくことこそ、このフェスティバルの目的であり、これからの新たな挑戦を共有し、共にエクスペリメンタルな日々を過ごすことを楽しみにしています。

最後に、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の状況に際し、度重なる変更にも大きな理解を示しフェスティバルに力を与えてくれたアーティスト、そして関係者、スタッフのみなさんに感謝します。

KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター 川崎陽子 塚原悠也 ジュリエット・礼子・ナップ

☞ KYOTO EXPERIMENT新ロゴ

アートディレクターに小池アイ子を新しく迎え、KYOTO EXPERIMENTのロゴが変わりました。 プログラムだけではなく、フェスティバルにまつわるデザインも

「EXPERIMENT(エクスペリメント)=実験」的な試みをこれから展開していきます。



188 ロゴ・コンセプト

中止、延期、オンライン配信。 繰り返される変更の通知。未来が見えない不安と葛藤。

変わりゆく状況の中で、これからの舞台芸術祭の口ゴを、いま定めてしまうのは難しいと思った。 混沌とした世の中のぐにゃぐにゃと、ダンスやパフォーマンス、動きの軌道のぐにゃぐにゃ。 変化する社会や人の気持ちに寄り添って、柔軟で、変容する、2 秒で出来る即興性のある口ゴ。 不安や期待、愛をこめて、その都度ぐにゃぐにゃを描く。

世界がぐにゃぐにゃしているとき、舞台芸術もぐにゃぐにゃ起こっている。 プラットフォームが変わっても、舞台芸術はなくならない。 このぐにゃぐにゃが、従来の舞台芸術祭の在り方を越えて、どう変貌していくのか、実験していきたい。

☞ 新アートディレクター

小池アイ子 Aiko Koike

1989年東京生まれ。セントラル・セント・マーチンズ大学グラフィックデザイン学部卒業後、village® 所属。 2016年より独立。アートディレクション、グラフィックデザイン業務を行う。

http://aikokoike.com/

☞フェスティバルを構成する3つのプログラム

KYOTO EXPERIMENT は 3つのプログラムから構成しています。

カンサイ・スタディーズ

1 Kansai Studies (リサーチプログラム)

京都を舞台に展開する KYOTO EXPERIMENT。京都から「関西」までフォーカスを広げ、どこを掘ればどこに繋がるのか、アートにおける関西という場のポテンシャルやローカル・カルチャーの実態を改めて定義しようという試みです。このプログラムでは、アーティストが中心となり、地域市民、プロデューサーや研究者と一緒に、年間を通じて関西の地域文化をリサーチしていきます。また、リサーチを通じて生まれた思考の軌跡やプロセスは、特設ウェブサイトで公開・蓄積され、誰もがアクセスできるオンライン図書館として、未来のクリエイターのため、プロジェクトを実践するためのナレッジベースや実験場、アイデアソースとなる予定です。

15 参加アーティスト

dot architects [日本]、和田ながら「日本]

ショウズ

② Shows (上演プログラム)

国内外から先鋭的なアーティストを迎え、いま注目すべき舞台芸術作品 10 作品を上演するプログラム。京都および 関西における舞台芸術の変遷と動向に注目しながら、ダンス、演劇、音楽、美術といったジャンルを越境した実験 的作品を紹介します。また、観客席と舞台の関係性、ジェンダーの境界線、パフォーマンスの主体における境界線、 作品と創作プロセスの境界線など、舞台芸術をとりまくさまざまな境界線に対して、新たな問いを投げかける意欲 的な作品にフォーカスしています。

☞参加アーティスト

小原真史 [日本 | 展示]

デイナ・ミシェル [カナダ | ダンス]

垣尾優「日本 | ダンス]

フロレンティナ・ホルツィンガー [オーストリア | パフォーマンス]

山本精一 [日本 | 音楽]

ナターシャ・トンテイ [インドネシア | パフォーマンス]

音遊びの会×いとうせいこう [日本 | 音楽・パフォーマンス]

中間アヤカ&コレオグラフィ [日本 | ダンス]

ウィチャヤ・アータマート/ For What Theatre [タイ | 演劇]

ママリアン・ダイビング・リフレックス/ダレン・オドネル[カナダ | 演劇]

スーパー・ナレッジ・フォー・ザ・フューチャー

③ Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)

アーティストは未来を予見する!?とりわけ実験的な舞台芸術作品と社会をつなぎ、化学反応から新たな思考と対話、フレッシュな問題提起など、未来への視点を獲得していくのがこのプログラム。参加者はトークやワークショップなどを通じて、実験的表現が示し出すアートの世界の問題だけでないさまざまな社会問題を知り、共有、交換、対話、議論などで役立つナレッジを深めていきます。ここで獲得できるスーパー知識(ナレッジ)は、いまの社会において重要な問題や予測不能な未来に、立ち向かい考えるための拠り所となるはずです。

Kansai Studies

関西のアーティストが協働し、

京都および関西の地域文化を3年にわたりリサーチするプログラム。 1年目である2020年度は「水」をテーマとしたリサーチの過程を 特設ウェブサイトにおいて公開し、

フェスティバル会期中にパブリックイベントを行います。 2021年度以降は、ワークインプログレス公演や展示の開催、 ウェブサイトでのリサーチ過程の公開を行い、 3年目をむかえる 2022年度に 3年間の成果を発表する予定です。

Kansai Studies 特設サイト(1月にオープン予定)

kansai-studies.com

フェスティバル会期中に Kansai Studies の プロセスをシェアする展示やトーク、 その他イベントを開催予定。

展示 3.20 (土・祝) - 3.28 (日) トーク 3.20 (土・祝) 13:00 - 14:30 会場 京都芸術センター 制作室 1



dot architects

家成俊勝、赤代武志により設立された建築家ユニット。大阪・北加賀屋にて、アート、オルタナティブ・メディア、アーカイブ、建築、地域研究、サークル、NPOなど、分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実践するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点に活動。設計、施工のプロセスにおいて専門家・非専門家に関わらず様々な人との協働を実践している。設計だけに留まらず、現場施工、リサーチプロジェクト、アートプロジェクトなど様々な企画にもかかわる。第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展(2016)にて審査員特別表彰を受賞(日本館出展作家)。これまでもKYOTO EXPERIMENTではデザインチーム UMA / design farm とのリサーチプロジェクト「researchlight」を展開。現在のメンバーは家成俊勝、赤代武志、土井亘、寺田英史、宮地敬子、池田藍、石田知弘の7名。

和田ながら Nagara Wada

京都造形芸術大学芸術学部映像・舞台芸術学科卒業、同大学大学院芸術研究科修士課程修了。2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。日常的な視力では見逃し続けてしまう厖大な細部を言葉と身体で接写する、あるいは捉えそこないつまづくさまを連ねるように作品を制作。美術家や写真家など異なる領域のアーティストとも共同作業を行う。2015年、創作コンペティション「一つの戯曲からの創作をとおして語ろう」vol.5 最優秀作品賞受賞。2018年、こまばアゴラ演出家コンクール観客賞受賞。2018年より多角的アートスペース・UrBANGUILDブッキングスタッフ。2019年より地図にまつわるリサーチプロジェクト「わたしたちのフリーハンドなアトラス」に取り組んでいる。

Shows

小原真史 【日本 | 展示】

初展示資料あり

イッツ・ア・スモールワールド: 帝国の祭典と人間の展示

It's a Small World: Imperial Festivals and Human Exhibitions

日時 2.6(土)-2.28(日)[2.15のみ休館] 9:00-17:00(入館は16:30まで) 会場 京都伝統産業ミュージアム 企画展示室



「学術人類館」(第五回內国勧業博覧会) 1903 年、個人蔵

見られる身体の歴史

19世紀末から 20世紀初頭の欧米では、博覧会が隆盛期を迎え、人々がモノの展示を通じて新たな世界認識を得る空間が作り出されていた。初期の万博は、産業製品の先進性にしのぎを削る「産業の祭典」という側面が強かったが、やがて植民地拡大にまい進する帝国主義国がその国威をアピールするショーケースのような空間になっていく。日本でも 1903年の第五回内国制業博覧会で当時の植民地だった台湾のパビリオンが建設され、そのほかにも余興施設として「内地」周辺の「異民族」を展示する「学術人類館」と呼ばれる施設も登場した。インディペンデント・キュレーターの小原真史が企画した本展では、第四回内国制業博覧会跡地の岡崎エリアに位置する京都伝統産業ミュージアムを舞台に、日本における博覧会初の人間の展示施設となった「学術人類館」にまつわる新発見写真や世界各国で行われた同様の資料約 1000 点などにより、この時代の人々が植民地や異文化をどうイメージしていたか、またその欲望の所在を探る。

舞台芸術祭の一環として開催される本展は、観客とパフォーマーとの「見る/見られる」という関係性や、 西洋の他者として位置付けられてきた身体の歴史をたどるという意味で、大きな意義をもつだろう。2025年大 阪万博を控えた関西において、博覧会が幻視させてきた明るい未来像の陰の部分にスポットライトを当てるこ とで、グローバリズムの綻びや人種差別の問題、国家イベントの意味を考えてみよう。



小原真史 Masashi Kohara

キュレーター・映像作家。1978年愛知県生まれ。監督作品に『カメラになった男 写真家中平卓馬』(2003)がある。2005年に「中平卓馬試論」で重森弘海写真評論賞、2016年に第24回写真協会賞学芸賞を受賞。IZU PHOTO MUSEUM 研究員として「荒木経惟写真集展 アラーキー」、「宮崎学 自然の鉛筆」展、「増山たづ子 すべて写真になる日まで」、「小島一郎 北へ/北から」展などを担当。単著・共著に『時の宙吊り 生・写真・死』、『富士幻景 近代日本と富士の病』、『戦争と平和〈報道写真〉が伝えたかった日本』、『森の探偵 無人カメラが捉えた日本の自然』など。

京都国際舞台芸術祭

デイナ・ミシェル 【カナダ | ダンス】

「Mercurial George」&「Lay them all down」上映会

Mercurial George & Lay them all down (Screening)

日時 2.20 (土) 15:00

会場☞京都芸術劇場 春秋座

上映時間:100分(プレトーク含む)

Mercurial George: 60分 Lay them all down: 30分

* KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクターによるプレトークあり。



Photo by Camille McOuat

映像2本立てで堪能する、現代を生きるわたしたちにとっての「アイデンティティ」

カナダの振付家デイナ・ミシェルは彫刻、映像表現、心理学などから影響を受け、独自のダンス言語によってさまざまな潜在的社会慣習を打ち破る作品を発表。世界各地に招聘され注目を集めてきた。今回は、2016年以来上演を重ねてきたソロ作品『Mercurial George』の記録映像と、最新の映像作品『Lay them all down』(2020)の2本立てによる映像上映会で、フェスティバルのオーディエンスに紹介する。

『Mercurial George』で繊細なジェスチャー、サウンドや歌と共に問いかけられるのは、極めて普遍的かつ個人的なメッセージだ。『「アイデンティティ」とはどこから来て、どのようなかたちで、あなた自身に設定されるのか?モノや感情、愛情との影響は?』コロナ渦での開催となった今年の第11回ベルリン・ビエンナーレで初公開された映像作品『Lay them all down』は、ビジュアルアーティストのトレーシー・モーリスとのコラボレーション。ライブパフォーマンスを元に構成されており、ミシェルは美術館の空間から空間へと移動し、男性用スーツや時にはラグのようなもの、様々に外見を変えながら、怒り、性、混乱、力や喜びなどさまざまな感情のなかに自己を見出していく。細やかで豊かな機織に満たされたミシェルのダンス世界を余すところなく体験して欲しい!

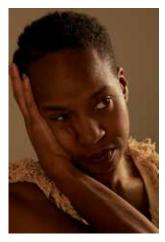


Photo by Richmond Lam

デイナ・ミシェル Dana Michel

振付家・ライブアーティスト。1976年カナダ、オタワ生まれ。モントリオール在住。即興、彫刻、ヒップホップ、コメディ、映画、ダブ、社会状況への言及といったさまざまな要素を拡張、相互に作用させながら作品を創作し、作品の題材としている自身の経験を、それによって変容させている。20代後半でコンコーディア大学のBFAプログラムにてコンテンポラリーダンスを学ぶ。それ以前は、マーケティングエグゼクティブ、競技ランナー、フットボール選手でもあった。2017年、NYタイムズ紙にて、その年の注目するべき振付家の一人として紹介される。2017年、ヴェネツィア・ビエンナーレの innovation in Dance 部門で銀獅子賞受賞。2019年には ANTI Festival International Prize for Live Art を受賞。Par B.L.euxのアソシエイトアーティスト。



垣尾優 【日本 | ダンス】

それから

上演・新作

And Then

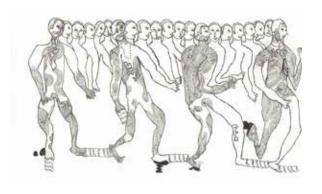
日時☞ 2.26(金)19:00 2.27(土)17:00★ 2.28(日)17:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 ロームシアター京都 ノースホール 上演時間 60分 (予定)



© 垣尾優



混沌から垣間見る、ダンス表現の宇宙

舞踏からパルクールまで様々なジャンルにアンテナを張り、その独自のムーブメントにより唯一無二のダンサーとして関西の舞台芸術シーンで異彩を放つ垣尾優。自身の作品も発表しており、なかでも 2019 年のソロダンス作品『愛のゆくえ』は、作家としての垣尾優の新たな可能性を切り拓いたと好評を得た。本作は『愛のゆくえ』の勢いに乗る、最新作となる。

今回 KYOTO EXPERIMENTのために創られるという新作は「ダンスそのものに正面から向き合うことで、混沌とした『動く』ことの原初的考察と、究極的にはその価値をただそのまま提示する」ことだと垣尾は言う。「踊ることで何かの答えは出ない、ただ思いがけず全身が納得する」と垣尾が語るように、頭で理解するのとは違うやり方で身体の理解・表現と共に生きることを、創作プロセスも含めて見せてくれそうだ。きっとそこで示されるメッセージは、ダンス作品創作のあり方についても新たなヒントを投げかけてくれるに違いない。



垣尾優 Masaru Kakio

ダンサー・振付家。大阪在住。モダンダンスや大野一雄の舞踏などに強く影響を受けながら、音楽や哲学、映画やストリートカルチャーなどの現代の様々な分野の表現にも影響を受け、独自に解釈し身体化した動きに定評がある。2004年より岡登志子主宰 Ensemble Sonne の作品にゲスト出演。2006年から2009年まで contact Gonzoとして活動。山下残振付作品『透明人間』(2003)、松本雄吉+ジュン・グエン=ハツシバ+垣尾優共同制作『sea water』(2014)、砂連尾理振付作品『猿とモルターレ』(2015)等に出演。FIDCDMX(メキシコ)ソロダンスコンペティションに選出(2018)。Dance Boxにて垣尾優ソロダンス『愛のゆくえ』を発表(2019)。

フロレンティナ・ホルツィンガー

【オーストリア | パフォーマンス】

「Apollon」上映会&オンラインワークショップ

Apollon (Screening) & Online Workshop

日時歸上映会: 3.5(金)19:00★

3.6 (土) 15:30

オンラインワークショップ:3.6 (土) 18:00

会場 ピロームシアター京都 ノースホール

(上映会、オンラインワークショップ共に)

上映時間:90分 オンラインワークショップ:90分

★3.5(金)の上映会終了後、アーティストがオンラインで登壇するトークあり。



Photo by Radovan Dranga

ハイアート vs トラッシュなカルチャーの境界線を探る

2021年よりベルリンのフォルクスビューネ劇場に招聘され、最新作で数々の賞を受賞するなどヨーロッパの舞台芸術界でいまもっとも熱い視線を集めるフロレンティナ・ホルツィンガー。今回、世界各地のフェスティバルで上演されてきた話題作『Apollon』の映像を劇場で上映する。また、ウィーンから中継でお届けするオンラインワークショップを KYOTO EXPERIMENT のために特別に実施する。日本初紹介となるホルツィンガーの過激かつチャーミングな美学を体験できるまたとない機会をお見逃しなく!

『Apollon』は、20世紀最大の振付家バランシンの名作『アポロ』に登場するアポロンと女神たちの物語を下敷きに、6名の女性パフォーマーがこの神話の世界を展開する超話題作だ。マシントレーニングからスプラッター、トウシューズで踊られるバレエ、機械仕掛けのロデオまで。悪趣味なまでのパフォーマンスが、完璧な知性とブラックユーモアによって舞台上で昇華し、女性の身体やジェンダー表象に強烈な一撃を食らわせる。

オンラインワークショップは、格闘技やスタントなどホルツィンガーが作品創作にも取り入れている技法や身体へのアプローチを知ることができるまたとない機会となる。会場となるロームシアター京都 ノースホールに集まり、思う存分自分の身体で体験してみて!

※「Apollon」上映会では過激・不快に感じる可能性のある表現が含まれます。予めご了承の上観覧ください。

※オンラインワークショップはホルツィンガーがオンラインで登場し、参加者は会場に集まり実施します。詳細は、後日ウェブサイトにてお知らせします。



Photo by Apollonia Bitzan

フロレンティナ・ホルツィンガー Florentina Holzinger

ダンサー・振付家。1986年オーストリア、ウィーン生まれ。アムステルダムとウィーンを拠点に活動。ハイ・カルチャーとエンターテイメントの間の揺れ動く境界線と意識的に戯れ、女性の表象のさまざまなモードを探求しながら女性の身体性が秘める最大限の可能性を問う作品を制作してきた。オランダ・アムステルダムの芸術大学、スクール・オブ・ニューダンス・ディヴェロップメントにて振付を学び、ソロ作品『Silk』は2012年インパルスタンツにて Prix Jardin d' Europe賞を受賞。2018年には『Apollon』(製作: CAMPO)で De Châtel Award を受賞した。

山本精一 【日本 | 音楽】 上演

山本精一ディレクション・音楽プログラム シアター版

日時 3.7 (日) 15:00 会場 15 ロームシアター 京都 サウスホール 上演時間 15 180 分

関西における実験的表現の系譜をたどる 3 時間

関西のみならず、近年の日本の実験的な音楽に多大な影響を及ぼしてきたミュージシャン、山本精一。その彼がディレクションを手掛ける音楽プログラムをロームシアター京都 サウスホールにて実施する。BOREDOMS、想い出波止場、ROVOをはじめ、多数のバンドで変幻自在の演奏を見せる山本精一は、一方で大阪の伝説的なライブハウス「難波ベアーズ」に 1987年から関わる。30年以上にわたる活動を通じて「ベアーズ」は様々なミュージシャンやバンドを輩出し、ときにあまりに実験的なパフォーマンスの数々はうわさ話などを通じて伝説化していった。その影響は音楽シーンを超えて様々なジャンルのアーティストに及び、関西に色濃く残る。このプログラムではその系譜の一端を解明し、表現の幅広さをリアルに体感できるものになること必至だ。KYOTO EXPERIMENTで上演するシアター版の一週間後には京都 CLUB METRO において「クラブ版」山本精一ディレクション企画も提携企画として実施され、劇場とはまた異なる磁場においての山本精一の「思考」も俯瞰的に体験できる。



山本精一 Seiichi Yamamoto

造音作家。兵庫県生まれ、京都在住。オルタナティヴユニット「BOREDOMS」、アブストラクト・ロック実験室「想い出波止場」、擬似ポップバンド「羅針盤」、コズミックダンスバンド「ROVO」、恣意的初期衝動パンクバンド「MOST」、数学的パズルグルーヴ「PARA」他、多数の実験的バンド /ユニットやソロワーク、内外の先鋭的な音楽家とのセッション等で、プレイヤー/ソングライター/コンポーザー/プロデューサーとして、ワールドワイドに活動を展開。ソロ作品としても、『selfy』『クラウン・オブ・ファジーグルーヴ』『ラプソディア』『プレイグラウンド』『CAFE BRAIN』他作品多数。また、『MIND GAME』(湯浅政明監督)『殺し屋1』(三池崇史監督)『アドレナリン・ドライブ』(矢口史靖監督)など映画音楽も手がける。文筆家、画家、写真家としても定期的に作品発表を行っており、著書に『ギンガ』(1999)『ゆん』(2008)『イマユラ』(2014)などがある。

☞クラブ版

日時 3.14(日)18:00

会場☞京都 CLUB METRO

※詳細は京都 CLUB METRO ウェブサイトをご覧ください。

ナターシャ・トンテイ

【インドネシア|パフォーマンス】

秘密のグルメ倶楽部

上演・再創作・日本初演

The Order of Autophagia

日時 3.9(火)-3.14(日)18:00/20:00(全日程)

★ 3.12 (金) 20:00 終演後、ポスト・パフォーマンス・トーク

★3.9(火)-3.14(日)の期間、会場内をインスタレーション作品 として公開します。

会場☞京都芸術センター 制作室1

上演時間:45分(予定)



©Natasha Tontey

ポップでグロ可愛い カニバリズムパフォーマンス

インドネシアのジョグジャカルタを拠点にヴィジュアル・アーティストとして活動しながら、近年はパフォーマンス作品にも注目が集まるナターシャ・トンテイ。2017年にスタートしたこのプロジェクトは、人間が生きていく上で必要な "食べる" 行為を、ポップでグロ可愛いトンテイワールドに染め上げて、地球温暖化や過剰消費など、現代社会が持つさまざまな問題へと観るものを誘ってくれる。

人体を模した形や色の料理で構成されたディナーテーブルを囲む、ホストであるトンテイとパフォーマー。彼らがそれを食べる様子から、パフォーマンスの空間と時間が作られていく。これらの行為は、社会的にタブー視されているカニバリズムにも通じ、食べること=生きることが、いかに社会的恐怖と不安により支配されているかを暴き出していく。カニバリズムというコンセプトは同時に、植民地時代の力学から表象されてきた歴史を持ち、現在もそのまなざしから逃れているとはいえないだろう。また、地球温暖化につながる過剰消費社会に、自らの身体を消費(=食べる)することでしか生き延びられない人を重ね合わせた、アイロニカルな視点も隠れている。パフォーマティブ・ディナーという演劇的なしつらえで観客とコミュニケーションしながら進む本作。当日は、京都の公演のために考案された特別メニューを見ることができるとのこと。乞うご期待!



©Natasha Tontey

ナターシャ・トンテイ Natasha Tontey

アーティスト・グラフィックデザイナー。ジョグジャカルタを拠点に活動。フィクションの概念を思索の手法として探求する作品を制作する。こうした手法により「捏造された恐怖」にまつわる歴史や神話の虚構に光を当て、それらがどのように未来への期待を規定するかを探る。Next Wave Festival (2016)、黄金町バザール (2015)、ザ・インストゥルメント・ビルダーズ・プロジェクト・キョウト—循環するエコー (2018)、Multispecies Experiment (2019)、Polyphonic Social 2019 by Liquid Architecture、K4 Gallery of Video and Moving Image (2019)、The Wrong Biennale for Digital Arts (2019) などで作品を発表している。2019 年には ArtJog MMXIX の Young Artist Award を受賞。2020年 ZKM Karlsruhe and Akademie Schloss Solitude の Net-Based Projects in the Fields of Art, Technology and Design 部門 HASH 賞を受賞。Performance Space (シドニー) Micro Fellowship 2020 およびトランスメディアーレ 2021 の Martin Roth Initiative Virtual Residency に選ばれている。



音遊びの会×いとうせいこう 【日本 | 音楽・パフォーマンス】

「音、京都、おっとっと、せいこうと」

上演・新作

Day1 上ル Day2 下ル

ΟΤΟ ΚΥΟ-ΟΤΟ ΟΤΤΟΤΤΟ SEIKO-ΟΤΟ Day1 AGARU Day2 SAGARU

日時 B Day1 上ル: 3.13 (土) 18:00

Day2 下ル: 3.14(日) 14:00 ★ ★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場☞京都府立府民ホール "アルティ" 上演時間 120-150分(予定)



音と言葉をアナーキーに遊ぶ

2005年に神戸で発足し、知的障害のあるメンバーを含め、さまざまな世代のメンバーが共に創作・活動する アーティスト集団「音遊びの会」。月2回のワークショップを地元、神戸にて継続的に行うほか、日本各地や イギリスなどで積極的に公演を行い、障害のある・なしを超えた新たなコラボレーション、表現の形を示すアー ティストグループとして注目を集めている。

主に自由な即興音楽の分野に主軸を置きアンサンブルセッションを中心に演奏の分野で活動してきた音遊び の会だが、今回、日本のヒップホップシーンの開拓者であり、作家や TV、ラジオなど様々な分野で才能を発 揮するいとうせいこうを迎え「音と言葉のセッション」をテーマにした全くあたらしい作品に取り組む。音遊 びの会による自由な発想で予測できない音楽の可能性に、いとうせいこうの的確に本質をつきながらもどこか ゆるい言葉、ラップが加わることで、新たなパフォーマンスの境地を示すことは間違いない。



音遊びの会 The Otoasobi Project

2005年結成、知的な障害のある人たちを含むアーティスト大集団。神 戸をベースとして、月2回の継続したワークショップで様々な表現を生 み出している。関西を中心に東京、水戸、島根、山口、北海道、イギリ スなど遠征公演も多数。2013年には英国ツアーの様子が NHK で特集さ れる。予定調和を許さないその音楽性は、見る者を釘付けにする。2019 年2月にはNHK Eテレの番組「バリバラ~障害者情報バラエティー~| の公開放送にて大阪 NHK ホールに招かれ、1200 人を沸かせた。

いとうせいこう Seiko Ito

小説家・作詞家・ラッパー。1961年東京生まれ。1988年に小説『ノー ライフ・キング』でデビュー。『想像ラジオ』で第35回野間文芸新人賞 受賞。近著に『今夜、笑の数を数えましょう』『小説禁止令に賛同する』 などがある。執筆活動を続ける一方で、宮沢章夫、竹中直人、シティボー イズらと数多くの舞台をこなす。みうらじゅんとは共作『見仏記』で新 たな仏像の鑑賞を発信し、武道館を超満員にするほどの大人気イベント 「ザ・スライドショー」をプロデュースする。音楽活動においては日本に ヒップホップカルチャーを広く知らしめ、日本語ラップの先駆者の一人 である。現在は、ロロロ(クチロロ)、いとうせいこう is the poet で活動。





中間アヤカ&コレオグラフィ 【日本 | ダンス】

フリーウェイ・ダンス

上演・再創作

Freeway Dance

日時☞ 3.19 (金) 15:00 3.20 (土·祝) 15:00 ★ 3.21 (日) 15:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 京都芸術センター 講堂 上演時間 15 240分 (ごはんの時間を含む)



Photo by Junpei Iwamoto

客席と舞台の境界線がまったくない、新感覚ダンス

国内外の多数の振付家の作品にダンサーとして参加し、自身でも作品制作を行う中間アヤカ。神戸を拠点に活動する90年代生まれの注目株だ。本作は、2019年に初演された中間のソロ作品『フリーウェイ·ダンス』を、京都版としてリ・クリエーションしたものとなる。

この作品では、中間が京都在住者等に「それぞれが初めて踊った時の記憶」を取材し、その「記憶」から中間のダンスが振り付けられる。会場空間を"造園"し、ごちゃごちゃとしたモノやコトで鏤め、4時間に及ぶ上演時間の中、「庭」で立ち上がるダンスは、極めて私的な記憶から出発しながら、小宇宙に広がるムーブメントのようであり、観客は、「庭」を自由に散歩しながら作品を体感していく。ここには、舞台も客席も、ダンサーと観客、作品が始まって終わるという仕切りすらなく、いわば「上演空間上のバーチャルな庭」ですべてが渾然一体となる心地よさがあるのだ。従来の創作方法を軽やかかつ過激に解体しながら、ダンス作品の可能性が新しく開かれる様子をぜひ目撃しよう。



中間アヤカ Ayaka Nakama

ダンサー。1992年大分県生まれ。神戸在住。Rambert School of Ballet and Contemporary Dance (ロンドン)を卒業後、「国内ダンス留学@神戸」1 期に奨学生として参加、ダンサー奨励賞受賞。近年では黒沢美香、木村玲奈、contact Gonzo、チェルフィッチュ等の作品に出演する傍ら、自身の作品制作も行う。2018年度より Dance Box アソシエイト・アーティスト。2019年に Dance Boxプロデュースにより『フリーウェイ・ダンス』を発表。

ウィチャヤ・アータマート/ For What Theatre

【タイ|演劇】

父の歌 (5月の3日間) 上演・日本初演

This Song Father Used to Sing (Three Days in May)

日時 3.24(水)-3.28(日)19:00

会場 I mumokuteki ホール

上演時間:100分



Photo by Wichaya Artamat

バンコクのキッチンで、個人と政治のレイヤーが交差する

個人史と政治の関わりを独自の演劇的アプローチで掬い上げ、タイ演劇界でいまもっとも注目されている若 手演出家ウィチャヤ・アータマート。本作はクンステン・フェスティバル・デザールや、ウィーン芸術週間を はじめとした多くの有力国際フェスティバルに招聘されるなど、高い評価をあつめる話題作だ。

舞台はバンコクの小さなキッチン。登場する姉弟は毎年5月のある日をこのキッチンで一緒に過ごし、料理をしながら亡くなった父親を想う。二人の間で生まれる会話には誇張がなく、時に冗談をかわしつつ、ただありのままが描かれているだけなのだが、やがて姉弟の個人的な物語は、二人の過去・現在・未来が混ざり合いながら、バンコクの政治史へとつながっていく。近現代史においてたびたびクーデターが繰り返されるタイだが、ここでは、日常生活のあらゆるところに染み付き、表裏一体となった「政治」という存在が、繊細かつシンプルに紡ぎ出される戯曲のなかで鮮やかに浮き上がってくる。



Photo by Wichaya Artamat

ウィチャヤ・アータマート Wichaya Artamat

演出家・For What Theatre メンバー。1985年、タイ・バンコク生まれ。タマサート大学映画専攻を卒業後、ライブパフォーマンスに魅了され、Bangkok Theatre Festival in 2008のプロジェクトコーディネーターとして劇場で働き始める。2009年には New Theatre Society に参加し、実験的な形式や演劇への斬新なアプローチが注目を集めた。特定の期間を通して社会がどのように歴史を覚えているか、またいかに忘れてしまうかを、様々な創造的な分野の人々とのコラボレーションにより探求することに強い関心を持つ。2015年に For What Theatre を共同設立。2015年に『Three Days in May』で International Association of Theatre Critics Thailand Centre (IATC)の最優秀演劇賞を受賞。

ママリアン・ダイビング・リフレックス/ダレン・オドネル

【カナダ | 演劇】

上演・日本初演

私がこれまでに体験したセックスのすべて

All The Sex I've Ever Had

日 時 ☞ 3.26 (金) 19:00 3.27 (土) 17:00 ★ 3.28 (日) 17:00 ★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場☞京都芸術センター 講堂

上演時間:100分

※鑑賞サポートあり。詳細はウェブサイトをご覧ください。



オーストラリアでの上演 (2017) Photo by Jim Lee

誰も教えてくれない性体験から、人生100年時代を考える

地域コミュニティと深く関わり、場所と社会の特徴に合わせたあっと驚く方法で人をつなげるママリアン・ダイビング・リフレックス。KYOTO EXPERIMENT 2017 の「チルドレンズ・チョイス・アワード」では、京都の子供たちのハートをわし掴みにし、今回待望の再登場となる。

「セックスの話を聞かせてくれませんか?」本作は、多様なバックグラウンドをもち、人生経験豊富なシニアたち (60 歳以上)が、自らの性体験を通して人生を語る "対話型" 演劇だ。障害や性、地域を超えて集まった日本のシニアたちが普段は公に話されることのないセックスについてのストーリーをきっかけに、リアルな気持ちと自らの言葉で人生を語る。性について語ることは、生を語ること。ある面では勇気の物語でありながら、同時にシニア世代から若者たちへとバトンをつなげる、世代間対話の物語でもあるのだ。

若い世代のカルチャーにばかりスポットが当てられがちな現代社会において、あえてシニア世代の思考や姿勢、これまでの人生に目をむけることで、未来にむけた視界がぐっと広がるはず。ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど、世界各国で、現地で集まったキャストと共にワークショップなどを重ねて上演されてきた話題作の日本版初演に期待が高まる。

*本公演は、2021年4月8日(木)-11日(日)に True Colors Festival (主催:日本財団)でも上演されます。

ママリアン・ダイビング・リフレックス Mammalian Diving Reflex

カナダ出身のパフォーマンス・アーティスト、ダレン・オドネル を中心として 1993 年にトロントで設立された アート&リサーチ集団。学校や老人ホーム、地域組織、アート・フェスティバル等との連携による国際的な共同作品の数々は、社会の鍼治療 (Social Acupuncture) と称される。観客同士、観客と素材の間、そして演技者と観客の間の対話を促進する作品を生み出すソーシャリー・エンゲイジド・アートの旗手として、世界各地で遊び心に溢れた、かつ挑発的な参加型プロジェクトを実施している。作品上演は 82 都市、27 ヶ国以上 にわたる。本公演はカナダ・カウンシルとオンタリオ・アーツカウンシル・ツアープログラムからの助成を受けて実施している。

ダレン・オドネル Darren O'Donnell

1965年カナダ出身。作家、脚本家、パフォーマンス・アーティスト。都市計画の学位を持つ。1993年にアートリサーチ集団「ママリアン・ダイビング・リフレックス」を設立。ヨーロッパ最大規模の芸術祭ルール・トリエンナーレで大型の教育普及プログラムを担当する。ユニークなアート表現で国籍、言語、世代や立場を越えた人々との創作を続ける。



Photo by Nicole Bazuin

☞ Super Knowledge for the Future [略称 SKF]

SKF のトークプログラムは KYOTO EXPERIMENT の YouTube チャンネルで無料オンライン配信予定。 ※一部配信しないプログラムあり。

☞ SKF プログラム一覧

- 01. エクスペリメンタルとは①スウィートチリソース (オンライン中継散歩版)
- 02. 関西ダンスヒストリー: アーカイブ上映
- 03. 小原真史トークプログラムシリーズ
 - ①トークイベント「沖縄と人類館事件」
 - ②小原真史 キュレーターズトーク
 - ③トークイベント「博覧会・博物館と人間の展示」
- 04. 食事の舞台 食卓
- 05. エクスペリメンタルとは②字宙生体医工学×身体表現
- 06. 「Re-new」 時における所作
- 07. エクスペリメンタルとは③「無駄」の研究
- 08. 空想地図作家×ノマド庭師「空間対談 |
- 09. エクスペリメンタルとは④都市の余白を耕す人々
- 10. インディーゲーム・フロム・キョウト展 (プレイ可)
- 11. 振り返りトーク (散歩)
- 12. 批評プロジェクト 2021 SPRING

01. エクスペリメンタルとは①スウィートチリソース(オンライン中継散歩版)

日 時 🖙 2.5 (金) 19:00-21:00

会 場曖オンライン

ゲスト☞荒木優光 (アーティスト) 聞き手☞塚原悠也

多面的な視野から「実験的=エクスペリメンタルとは何か?」を探るトークシリーズの記念すべき1回目!京都を拠点に「音」そのものを作品にするアーティストの荒木優光と、塚原悠也 (KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター/ contact Gonzo) の 2人がおくる DIY 生放送。京都市内の音楽にまつわるお気に入りのお店や思い出の場所をめぐりながら、携帯電話から中継することを試みる。 KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING のプレイベントとして開催! 中継を見てフェスティバル開幕まで待とう。



Photo by Takuya Matsumi

02. 関西ダンスヒストリー:アーカイブ上映

日 時 2.6 (土) - 3.28 (日)

90年代より、独自の発展を遂げてきた関西ダンスシーン。シーンを支える中核のひとつ NPO 法人 DANCE BOX の協力を得て、1995年~ 2000年の関西ダンスシーンの当時を語る複数映像やアーカイブ資料を展示で公開。これを皮切りとし、次回以降のフェスティバルでも関西ダンスシーンを 5年ごとに区切り、映像で紹介していく。会場はフェスティバルの総合インフォメーションとしての「ミーティングポイント」にもなっているのでぜひ立ち寄ってみて!

03. 小原真史トークプログラムシリーズ

①トークイベント「沖縄と人類館事件」

日時 2.6 (土) 14:00-15:30

会場☞京都伝統産業ミュージアム Material Library

登壇曖森口豁(ジャーナリスト)、小原真史

キュレーターで映像作家でもある小原真史による展示「イッツ・ア・スモールワールド:帝国の祭典と人間の展示」にあわせて開催するトーク企画の第一弾。日本テレビの沖縄特派員として「人類館」を題材とした演劇についての番組をはじめ数々のドキュメンタリー映像を制作してきたジャーナリストの森口豁をゲストに迎える。「人類館事件」から見える近現代沖縄と本土の歴史や沖縄表象などをテーマにしたトークが展開される。

②小原真史 キュレーターズトーク

日時 2.7 (日) 11:30-12:00

会場☞京都伝統産業ミュージアム Material Library

登壇☞小原真史

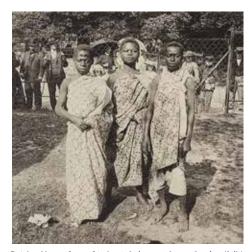
「イッツ・ア・スモールワールド:帝国の祭典と人間の展示」には、世界各国の博覧会や植民地に関わる1000点以上の資料と「学術人類館」の新発見の写真が展示されており、必見!!今回は企画者の小原真史自ら、展示のみどころや、ポイント、その背景となる歴史などについて解説。より深く展示を理解できるまたとない機会だ。

③トークイベント「博覧会・博物館と人間の展示」

日時 2.7 (日) 14:00-16:00

会場 は京都伝統産業ミュージアム Material Library 登壇 は吉田憲司 (国立民族学博物館館長)、小原真史

アフリカの儀礼や仮面についてのフィールドワークを行いながら、 博物館における異文化表象について長らく研究してきた国立民族学 博物館館長の吉田憲司をゲストに迎える。本展のテーマである「人 間の展示」についても早くから着目し、論考や展覧会のなかで紹介 してきた。博物館と博覧会の歴史、博物館と「人間の展示」の関係 などをテーマとしたトークが期待される。



|パリ、ジャルダン・ダクリマタシオン、アシャンティ人の若者| 1903 年、個人蔵

04. 食事の舞台―食卓

日時 3 2.7 (日) 16:30-18:00

会場☞ロームシアター京都 パークプラザ 3F 共通ロビー

ゲスト ☞ 石毛直道 (文化人類学者)

聞き手塚 KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター

東アジア食物史の開拓者であり、特に中国の食物史に関する第一人者の文化人類学者の石毛直道をゲストに迎え、食の文化的・社会的インパクトから、日本の近代化以前・以降の「食べ方」、食事の時間のあり方、振る舞いの変化など総合的にお話いただく。『リビア砂漠探検記』『食卓の文化誌』『食いしん坊の民族学』『日本の食文化史』など、人気の食エッセイやルポなど著書を片手に参加してみては。

05. エクスペリメンタルとは②宇宙生体医工学×身体表現

日 時 ☞ 2.11 (木・祝) 17:00-19:00

会 場☞ FabCafe Kyoto

ゲスト ☞ 大平充宣 (同志社大学 客員教授 宇宙生体医工学研究プロジェクト)、 垣尾優 (ダンサー)

聞き手塚 KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター

多面的な視野から「実験的=エクスペリメンタルとは何か?」を探るトークシリーズ 2回目。宇宙もふくめた未知の環境(コロナ時代もそうかも!?)で、精神的・身体的にどんな備えをしたら人類は生き残れる?という問いから出発した対談。新しい動きを作ること、新しい環境にリアクションできる身体の準備、そのためのイメージの仕方について、ダンサーであり、Showsで新作も発表予定の垣尾優が同志社大学 客員教授の大平充宣に対談形式で質問する。柔軟な知覚と身体感覚はいかに獲得できるのか、ご期待を!



© 垣尾優

06. [Re-new] 時における所作

日 時 2.15 (月) 19:00-20:30

会 場☞ロームシアター京都 パークプラザ 3F 共通ロビー

ゲスト1877 青木淳(京都市京セラ美術館館長)

聞き手塚 KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター

2020年3月に大型リニューアルオープンを迎えた京都市京セラ美術館。その改修を手がけ、館長も務める建築家の青木淳をゲストに迎え、KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクターを加えて、美術館と社会の関わりやその拡張性についてのクロストークを開催する。舞台芸術の分野で、異なるジャンルへの拡張性が実験的な表現を生み出しているが、建築という形あるものと外との接続の方法や、それらを踏まえてこれからの社会における美術館でやるべき企画の形など、自由にビジョンを語り合う。まさに、ジャンルを越え「京都の性質」「実験的表現」「社会との接続方法」という3つのキーワードを広く考える機会になるだろう。

07.エクスペリメンタルとは③「無駄」の研究

日 時 2.20 (土) 18:30-20:30

会 場塚ロームシアター京都 パークプラザ 3F 共通ロビー

ゲスト☞吉森保(大阪大学大学院 医学系研究科/生命機能研究科 教授)、

吉岡洋 (美学者・京都大学 こころの未来研究センター特定教授)

聞き手隊 KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター

多面的な視野から「実験的=エクスペリメンタルとは何か?」を探るトークシリーズ3回目。生産性の高さ、役に立つことで人の重みが計られがちな社会で、あえて「無駄」の有用性を考えてみたい。ことに文化や研究の分野、アーティストの活動などは、しばしば実験的で、すぐに目に見える成果にならないものが多いが、のちに大きな成果を打ち立てることもあるような世界だ。吉岡洋と吉森保という、異なる分野ながらそれぞれの研究の第一線で活動する2人をむかえて、「無駄」の重要性をじっくりと語ってもらう。

08. 空想地図作家×ノマド庭師「空間対談」

日 時 3.13 (土) 15:00-17:00

会 場腳有斐斎弘道館

ゲスト曖地理人(空想地図作家)、

ハシグチヨウヘイ(庭のジプシー主宰)

聞き手塚 KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター

現実には存在しない都市の地図を作ることで、そこに空間を立ち上げる地理人(空想地図作家)と、日本全国どこでも旅しながら、「庭」という小宇宙を作り出すハシグチョウへイ(作庭家)による対談。ハシグチは Showsで上演される中間アヤカの作品ではセノグラファーとして参加する。地図と作庭、どちらの活動もパフォーミングアーツの表現要素と多くの共通点が見出せる分野であり、さまざまな舞台芸術表現との接続点を見出せるだろう。



地理人による空想地図「中村市」

09. エクスペリメンタルとは④都市の余白を耕す人々

日 時 3.14 (日) 11:00-12:30

会 場ぼオンライン

ゲスト☞西村勇、東井孝司(中京・花とみどりの会)ほか

聞き手塚 KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター

多面的な視野から「実験的 = エクスペリメンタルとは何か?」を探るトークシリーズ 4回目。NY やパリ、サンフランシスコなど、世界中の大都市で近年注目が高まり続けるアーバン・アグリカルチャー(都市農業)。「気候変動」「都市緑化」「貧困対策」「コミュニティ」などの問題に対し、サスティナブルな都市を実現するためだ。実はなんと!! 京都でも、14年前から中京区役所の屋上で庭園づくりや養蜂などの活動を続けているとのことで、活動に携われているボランティアさんなどの話を現場から中継でおとどけする。

10. インディーゲーム・フロム・キョウト展 (プレイ可)

日時 3.19 (金) - 3.21 (日)、3.26 (金) - 3.28 (日)

会場☞京都芸術センター フリースペース

出展 Chuhai Labs ほか

世界がパンデミックで自粛している期間も、活発に人々が 交流していた世界、それはゲーム!世界の有名美術館やラ グジュアリーメゾンが「あつ森」に参加するなど、ブーム は加速の一方。ここで考えてみよう、ある限定された空間 を作り、参加するキャラクターが役割を振り付けられるる ど、ゲーム仮想空間とパフォーマンスに共通するものも多 いのではないだろうか?そんなゲームの世界について、京 都に多数存在するというインディーズ系ゲーム会社による いまオススメのゲームソフトなどを参照しながら、ゲーム の今を考えていく。



©Chuhai Labs ゲーム「Tinker Trains」

11. 振り返りトーク (散歩)

- 日 時 4.3 (土) 13:00-14:30
- 会 場☞オンライン
- 出 演 ☞ 橋本裕介 (ロームシアター京都プログラムディレクター)、

川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ (KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター)

KYOTO EXPERIMENT を 10 年率いた橋本裕介と、橋本からバトンを受けた川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップの、新旧プログラム・ディレクターが一同に集まり、3/28 に終了した今回のフェスティバルを振り返り、これからを語る特別企画。コロナ時代にふさわしく、京都市内を見渡す大文字山を登り、散歩しながら中継する。なお観客からの疑問やコメントに答えるコーナーも予定。

12. 批評プロジェクト 2021 SPRING

参加方法☞オンライン

講師 ☞ 森山直人 (演劇批評家/京都芸術大学 舞台芸術研究センター所長補佐)

演劇批評家の森山直人を講師にむかえ、実験的舞台芸術の見方を考える批評プロジェクトを開催!対象演目を見てレビューを書き応募を経て、選出された数作品は、森山から個別のレッスンがもらえ、ブラッシュアップののち KYOTO EXPERIMENTウェブサイトおよび今後のフェスティバルマガジンに掲載される。舞台芸術のライティングを学んでみたいという人はぜひチャレンジしてみては。

(募集要項・詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。)

□ ミーティングポイント

フェスティバル開催期間中に出現する、フェスティバルと観客とのコミュニケーションのためのスポット 「ミーティングポイント」。

今回は「フェスティバルボックス」と「フェスティバルリビング」の2種類のミーティングポイントを設置します。フェスティバルと観客との交流の場として、スタッフによるおすすめプログラムの紹介やチケットの販売、イベント開催などを予定。設計は前回に引き続き、建築家ユニット dot architects が手がけます。

<オープン期間>

□ フェスティバルリビング

ロームシアター京都 プロムナード内:1.27(水)-3.28(日)

19 フェスティバルボックス

Deまち:1.30(土)-2.5(金)

京都芸術センター: 2.6(土)-3.28(日)



フェスティバルボックス

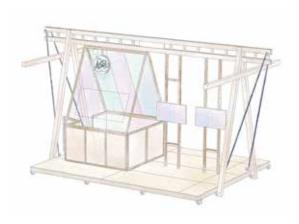
フェスティバルボックス

スタッフによるおすすめプログラムの紹介があり、プログラムのチケットやフェスティバルのグッズ購入が可能。会期1週間前からは出町商店街近くに位置する De まちに設置され、会期中は京都芸術センターに出現します。

フェスティバルリビング

リラックスした環境の中で、KYOTO EXPERIMENT についてもっと知ることができる場所。過去の公演のアーカイブ映像を観たり、フェスティバルのプログラムやトピックに関する本を読んだり、フェスティバルマガジンを入手できたり、お昼寝などひと休みもできます。 また、ここからフェスティバルスタッフによるライブ配信トークも行います。

会期中は SKF プログラムのひとつ「関西ダンスヒストリー:アーカイブ 上映 | を公開しています。



フェスティバルリビングイメージ

日程 | 2.1 (月) - 2.28 (日) 会場 | 京都岡崎 蔦屋書店

「京都岡崎 蔦屋書店」では KYOTO EXPERIMENT ブックフェアを開催。参加アーティストの関連書籍に加え、共同ディレクターがオススメする選書コーナーも。観劇前 の予習に、あるいは観劇後により深くプログラムを知るために、ぜひご利用ください。



More Experiments

フェスティバルと同時期に京都府下で発表される作品を紹介するフレーム。京都文化芸術オフィシャルサイト Kyoto Art Boxにて、公演・イベント・展示情報を登録することで、「More Experiments」特集ページに掲載され、まとめて情報を閲覧することができます。また、「#more-ex」とハッシュタグをつけて SNSで投稿することで広報連携を図ります。



☞ 提携プログラム

☞京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル「荒木優光:わたしとゾンビ」

日程 | 2020.12.12 (土) - 2021.2.28 (日)

会場 | 京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル

料金|無料

■関連プログラム

荒木優光×塚原悠也「スウィートチリソース|

日程 | 2020.12.20 (日) 14:00

会場 | 京都市京セラ美術館 講演室

アーティスト荒木優光と共同ディレクター塚原悠也が創造行為における実験について語ります。SKFプログラム「エクスペリメンタルとは①スウィートチリソース(オンライン中継、散歩版)」との提携プログラムです。

https://kyotocity-kyocera.museum/



©Kai Maetani

☞ゲーテ・インスティトゥート・大阪・京都「COVERED CULTURE」

Multichannel Audio-Video-Installation

日程 | 2021.2.20(土)-2.28(日)

会場|河岸ホテル

料金 | 入場無料、予約不要

ドイツとアジアを結ぶプロジェクト COVERED CULTURE / カヴァード・カルチャーでは、ドイツ人アーティスト、ブリギッタ・ムンテンドルフとモリッツ・ローベック が、合唱という形が持つ可能性を通して、一人一人の人間がもつ文化的な刷り込みや個人的な解釈、集団におけるアプロプリエーションについて探ります。

https://www.covered-culture.org/

* このプロジェクトは一般財団法人 山岡記念財団の助成を受けて実施します



@Alt Space Loop

188 チケット情報

2021年1月8日(金)11:00よりチケット発売開始!

			前売						
	アーティスト・作品名	一般	ユース (25歳 以下)・学生	高校生以下	ペア (前売のみ)	当日券 (高校生以下は 前売と同額)	席種		
	デイナ・ミシェル 「Mercurial George」&「Lay them all down」上映会	¥1,000	¥500	無料	_	前売と同料金 生 ¥0	自由席		
	垣尾優 それから	¥3,000	¥2,500	¥1,000	¥5,500	前売料金 +¥500	自由席		
Shows	フロレンティナ・ホルツィンガー 「Apollon」上映会&オンラインワークショップ ※オンラインワークショップはウェブサイトをご覧ください。	¥1,000 上映会料金のみ	¥500	入場不可	_	前売と同料金 生 ¥0	自由席		
プログラ	山本精一 山本精一ディレクション・音楽プログラム	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席		
1	ナターシャ・トンテイ 秘密のグルメ倶楽部	¥2,500	¥2,000		¥4,500	前売料金	自由席		
	音遊びの会×いとうせいこう 「音、京都、おっとっと、せいこうと」Day1 上ル Day2 下ル ※おやこチケットあり	¥3,000	¥2,500	¥1,000	¥5,500		自由席		
	中間アヤカ&コレオグラフィ フリーウェイ・ダンス	¥3,000	¥2,500		¥5,500	+¥500	自由席		
	ウィチャヤ・アータマート/ For What Theatre 父の歌 (5月の3日間)	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席		
	ママリアン・ダイビング・リフレックス/ダレン・オドネル 私がこれまでに体験したセックスのすべて	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席		
	小原真史 イッツ・ア・スモールワールド:帝国の祭典と人間の展示	当日券のみ 一般:¥500 ユース・学生:¥300 高校生以下:無料 ※ Shows チケット割引にて無料。相互割引あり							
	SKF (Super Knowledge for the Future) プログラム	入場無料・予約優先 ※ SKF のプログラムはウェブサイトよりご予約ください。							
	Kansai Studies プログラム			入場無料			自由席		

- ・各公演の受付開始は開演の60分前です。
- ・ユース・学生、高校生以下チケットをご購入の方は公演当日、証明書のご提示が必要です。
- ・ペアは2枚分の料金です。同一演目・日時の公演を2人で観劇する場合のみ有効です。
- ・団体割引 (10 名以上) を設けております。詳細は KYOTO EXPERIMENT チケットセンターまで。
- ・車椅子でお越しのお客様は、各料金の¥500 引きとなります(「イッツ・ア・スモールワールド」展を除く)。車椅子または障害者手帳をお 持ちのお客様の介助者は、1名無料となります。ご予約・お問合せは KYOTO EXPERIMENT チケットセンターまで。
- ・演出の都合上、開演時刻を過ぎると入場できない場合がございます。その際払い戻しはいたしません。
- ・『私がこれまでに体験したセックスのすべて』には鑑賞サポートがあります。詳細はウェブサイトをご覧ください。

18 チケット取扱

■ KYOTO EXPERIMENT チケットセンター (11:00-19:00、日曜・祝日休 [フェスティバル開催期間中は無休])

オンライン | https://kyoto-ex.jp (セブン - イレブン引取)

電話予約 | 075-213-0820 (セブン - イレブン引取)

窓口 | 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

☞ ロームシアター京都チケットカウンター (10:00-19:00、年中無休 [臨時休館日を除く])

オンライン | https://www.e-get.jp/kyoto/pt/(要事前登録)

電話予約 | 075-746-3201

窓口 | 京都市左京区岡崎最勝寺町131F ※電話、窓口は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため短縮営業する場合あり。

毎 チケットぴあ

オンライン | http://t.pia.jp

電話予約 | 0570-02-9999

※オンラインは年中無休、24 時間受付

※その他、各会場でもプログラムのチケット取扱予定。(各会場で開催するプログラムのチケットのみ販売)

[京都芸術センター、京都芸術劇場チケットセンター、京都府立府民ホール"アルティ"、京都伝統産業ミュージアム]

☞ フリーパスチケット

KYOTO EXPERIMENT チケットセンターではお得なフリーパスチケットを取り扱っています。

※前売のみ ※本人のみ有効

フリーパス/学生フリーパス 【枚数限定】

フリーパス | ¥12,000 学生フリーパス | ¥8,000 (要学生証提示)

Shows プログラムの10 演目すべて(上映会・「イッツ・ア・スモールワールド」展を含む)をご覧いただけます(1演目につき1回)。

☞『音、京都、おっとっと、せいこうと』おやこチケット

おやこチケット | ¥3,500 (一般1名+高校生以下1名)

音遊びの会×いとうせいこう『音、京都、おっとっと、せいこうと』を親子でお得に観劇できるチケットです。

☞ Showsチケット割引

Shows プログラムの当日券をご購入の際に、他の Shows プログラムのチケットをご提示いただくと、当日券が前売料金にてご購入いただけます。

「イッツ・ア・スモールワールド」展は、他の Shows プログラムのチケットをご提示いただくと、無料でご入場いただけます。 ※チケット 1枚につき 1名、1回のみ有効。当日券のみの取扱で、残席がある場合に限ります。

※当日券の有無については、公演当日に KYOTO EXPERIMENT の公式 Twitter などでご案内します。

☞ 「イッツ・ア・スモールワールド:帝国の祭典と人間の展示 | 相互割引

京都市京セラ美術館、京都国立近代美術館、細見美術館、京都市動物園の当日のチケット半券をご提示いただくと、¥100 引きでご入場いただけます。

☞公演スケジュール

	2	月															
Shows	上演	5	6	7	8~	11	12 ~	15	16 ~	18	19	20	21	22 ~	26	27	28
	時間				10		14		17					25			
) m to l		Fri	Sat	Sun		Thu		Mon		Thu	Fri	Sat	Sun	 	Fri	Sat	Sun
小原真史								休									
イッツ・ア・スモールワールド:	_		展示	9:00-	17:0	0		館			展示	9:00-1	7:00]			
帝国の祭典と人間の展示		ļ						日									
デイナ・ミシェル																	
「Mercurial George」&	100分											15:00					
「Lay them all down」上映会																	
垣尾優																	
それから	60分														19:00	17:00	17:00
	(予定)															*	
フロレンティナ・ホルツィンガー																	
「Apollon」上映会&	上映会																
オンラインワークショップ	90分																
山本精一															İ		
山本精一ディレクション・音楽プログラム	180 分																
ナターシャ・トンテイ								+					<u> </u>	+-			
秘密のグルメ倶楽部	45 分																
	,																
 音遊びの会 x いとうせいこう								\vdash						\vdash			
- 「音、京都、おっとっと、せいこうと」	120-																
Day1上ル Day2下ル	150 分																
中間アヤカ&コレオグラフィ								1						+			
フリーウェイ・ダンス	240分																
	- 10 %																
ウィチャヤ・アータマート/		-						\vdash						\vdash			-
For What Theatre	100分																
文の歌 (5 月の 3 日間)	100 %																
ママリアン・ダイビング・リフレックス								<u> </u>	-					┼			<u> </u>
	90分																
/ダレン・オドネル 私がこれまでに経験したセックスのすべて	90 %																
がないこれまでに経験したセクノスジリー								<u> </u>									
					レー	ターズト	<u>ーク</u>	igspace									
		ļ		11:30				ļ									
	③「沖縄と	人類館			_	・博物館	官と人	間の展示	Ŕ.								
Super Knowledge for the Future			14:00	14:00													
[SKF]			4食	事の舞	台	5字宙生	体医	工学×身	体表現								
①スウィ	/ / ートチリ	リソース	,	16:30		17:00		6 ∫Re	-new_	<u> </u> 時におし	<u> </u> 1る所作	7	無駄」	の研究			
		19:00					L	19:00)			18:30			<u> </u>		<u>L</u> _
					(0)	関エが、	174	7 1 11	. 7	ーカイン	ブレ助						
					(2)	判四グ	ヘヒ	Λ Γ リ`	;	- // 15	/ 上呎						
Kansai Studies																	
こニハンがよりいし																	
ミーティングポイント	フェステ @ De ま			5 (E-:)		7.	エステ	イバルボ	ックス	②京都主	条術セ:	/ター:	2.6 (5	at) - 3	.28 (Su	n)	
	₩ DE X	9 . 1,30	(301) - 2	(FFI)				フェス・	ティバル	リビング	7:127	(Wed) -	3.28 (9	Sun)			
										/ = - /	/	,	٠٥ رو				

3月

3月																				4月
5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15 ~	19	20	21	22 ~	24	25	26	27	28	3
										18				23						
Fri	Sat	Sun	╀	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun		Fri	Sat	Sun		Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Sat
			\vdash																	
			┢									-								
上映会	上映会																			
19:00	15:30																			
	ワークミ	ショップ																		
	18:00																			
		15:00																		
				18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00											
				20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00											
							*													
								18:00	14:00											
									*											
											15:00	15:00	15:00							
												*								
															19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	
			_									-		-						
																	10.00	47.00	47.00	
																	19:00	17:00	17:00	
			\vdash					(ব)-	都市の余	白								*		
									11:00	ч										
			\vdash				(8	空間対認										ĪĪ	振り返り	トーク
								15:00												13:00
			\vdash	 	 										 					
										n E	昊 示:イ	ンディー	-ゲーハ			加展	示:イ	ンディー	ゲーム	
										100	747						41.1	7 1		
							②関西タ	ブンスヒ	ストリー	: P-	-カイブ									
												トーク		Б	星子つ	20/52+)-3.28('Sun'	L	
												13:00		B	×1/1 3.0	υίσαι	ا02.د-ر	Juri)		
				フェス・	ティバルオ	マクス@	京都芸術	ドセンタ	- : 2.6	(Sat)	- 3.28 (5	un)								
					フェスティ	バルリビ	ング:1.2	27 (Wed)	- 3.28 (S	iun)										

☞会場

A:ロームシアター京都

ミーティングポイント「フェスティバルリビング」@ ロームシアター京都 京都市左京区岡崎最勝寺町 13

Tel 075-771-6051 rohmtheatrekyoto.jp

B: 京都伝統産業ミュージアム

京都市左京区岡崎成勝寺町 9-1 京都市勧業館みやこめっせ 地下 1階 Tel 075-762-2670 kmtc.jp



ロームシアター京都 Photo by Shigeo Ogawa

- ・京都市バス 32、46 系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- ·京都市営地下鉄東西線「東山駅」下車、徒歩約10分
- ・駐車場なし、駐輪場あり(京都伝統産業ミュージアムは駐車場あり)

C: 京都芸術センター

ミーティングポイント「フェスティバルボックス」 ② 京都芸術センター 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

Tel 075-213-1000 www.kac.or.jp

- ・京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」下車、 22・24番出口より徒歩5分
- ・駐車場なし、駐輪場あり



京都芸術センター Photo by Omote Nobutada

D:京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都芸術大学內

Tel 075-791-8240 www.k-pac.org

- ・京都市バス 3、5、204 系統「上終町京都造形芸大前」下車すぐ
- · 叡山電車「茶山駅」下車、徒歩約10分
- ・駐車場なし、駐輪場あり(原付・バイクはご遠慮下さい)

E:京都府立府民ホール"アルティ"

京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町 590-1

Tel 075-441-1414 www.alti.org

- ・京都市営地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、6番出口より南へ徒歩5分
- ・駐車場なし、駐輪場あり



京都芸術劇場 春秋座 Photo by Toshihiro Shimizu

F: mumokuteki ホール

京都市中京区式部町 261 ヒューマンフォーラム本社ビル 3F Tel 075-534-1322 mumokuteki.com/hall

・阪急京都線「京都河原町駅」下車、11番出口より徒歩6分

G: ミーティングポイント「フェスティバルボックス」@ De まち

京都市上京区一真町 67

Tel 080-5343-0409 demachi.aai-b.jp

· 京阪電車 · 叡山電車「出町柳駅」下車、徒歩 5 分

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭

☞ 開催 クレジット

主催 京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、

京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術大学 舞台芸術研究センター]

助成 文化庁文化芸術振興費補助金(国際芸術交流支援事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

一般財団法人地域創造

公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド

公益財団法人セゾン文化財団

後援 在大阪インドネシア共和国総領事館、カナダ大使館、タイ王国大阪総領事館

機材協力 有限会社クワット、株式会社タケナカ、株式会社流 (RYU)

京都国際舞台芸術祭実行委員会

委員長 天野文雄(京都芸術大学 舞台芸術研究センター所長)

副委員長 森川佳昭 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団専務理事)

委員 井上俊彦(公益財団法人京都市芸術文化協会事務局長)

小崎哲哉(編集者/ REALKYOTO 発行人兼編集長)

橋本裕介(ロームシアター京都 事業担当課長)

畑律江(毎日新聞大阪本社学芸部専門編集委員)

松本守弘 (京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課担当課長)

吉岡洋(美学者/京都大学こころの未来研究センター特定教授)

監事 足立充宏(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団/ロームシアター京都副館長)

藤田智洋(京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課長)

京都国際舞台芸術祭実行委員会事務局

共同ディレクター 川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ

事務局長 垣脇純子

事務局 井上美葉子、門脇俊輔、渡邉裕史

広報 豊山佳美、前田瑠佳、當間芽

制作 里村真理、清水翼 (KANKARA Inc.)、武本彩子、山﨑佳奈子 (KANKARA Inc.)

[ロームシアター京都] 齋藤啓、寺田貴美子、松本花音 [京都芸術センター] 遠山きなり、水野慎子、八木志菜

「京都芸術大学 舞台芸術研究センター」川原美保

テクニカルディレクター 夏目雅也

テクニカルコーディネーター さかいまお

インターン 平川博理、山田航大

広報アンバサダー 中村奈保、松本沙英

ドキュメントコーディネート 西谷枝里子 (リレーリレー)

英文和訳 出口結美子

和文英訳 Art Translators Collective、ウィリアム・アンドリューズ、出口結美子

アートディレクション・デザイン 小池アイ子

映像・写真ディレクション 松見拓也、金成基、嶋田好孝、守屋友樹

ウェブディレクション bank to LLC. (光川貴浩、早志祐美、松田寛志)

ウェブデザイン 吉田健人 (bank to LLC.)

ウェブプログラム・コーディング 勤息義隆 (so design)、人見和真 (bank to LLC.)

アドバイザリーボード レザ・アフィシナ(ニューメディア・アーティスト/「ルアンルパ」メンバー・アーティスティックボー

ド/「ルアンルパ アーツラボラトリー」ディレクター)

小山田徹(美術家/京都市立芸術大学教授)

アンナ・ヴァグナー(フランクフルト・ムゾントゥルム劇場 ドラマトゥルク)